

●2017 年度 1年次生の履修例

春学期

曜日	月	火	水	木	金	土	集中
3講時				看護理論 (4~5月)			
4講時				看護管理論 (6~7月)	生活支援 看護学特論 (4月)		
5講時				看護研究 方法論 (4~5月)	母子看護学 特講Ⅰ (5~6月)		
6講時				看護継続 教育学 (6~7月)	母子看護学 特講Ⅱ (6~7月)		

秋学期

曜日	月	火	水	木	金	土	集中
2講時							看護と法律 (12月)
3講時						クリティカル 看護学 特講Ⅲ (9~1月)	
4講時					母子看護学 特講Ⅲ (10~11月)		
5講時					母子看護学 演習 (12~1月)		
6講時					母子看護学 特別演習 (10~1月)		

●2018 年度 2 年次生の履修例

春学期

曜日	月	火	水	木	金	土	集中
3講時							
4講時							
5講時					生活支援 看護学 特別研究		
6講時							

仕事の都合により、別の曜日や時間帯に調整していただいたりすることもありました。

秋学期

曜日	月	火	水	木	金	土	集中
2講時							
3講時							
4講時					生活支援 看護学 特別研究 (調査含む)		
5講時							
6講時							

仕事の都合や調査日程により、別の曜日や時間帯を調整していただいたり、調査日程を授業日に振り替えたりしてしました。

私が大学院で学ぼうと考えたのは、看護する立場とされる立場のジレンマを克服する看護を追求したいという想いからです。自分の家族が病気になる経験が基になっています。

大学院一年目は、必修科目で看護の基本となる理論、課題を解決するための研究方法を学び、専門科目では専門看護師の方や医師の方から研究の基礎となるような貴重なお話を伺うことが出来ました。大学院二年目に入り、それらをもとに研究テーマを決め、取り組んでいます。自分がどのようなことに課題を感じ、何を明らかにしたいのか、どうすればその課題が解決できるのか、たくさんの文献を読み、研究や知識を深めるほど悩ましくなることもありますが、疑問が解決できると嬉しくなることもあり、研究の面白さを感じています。

私は臨床での経験も大切にしたいという想いから、仕事を続けながら大学院で学んでいますが、仕事と学業、育児と思うように勉強時間を確保することができないこともあります、ゼミのある日以外にも、空き時間があるときは大学へ通学するようにしながら自分のペースで勉強しています。時に焦りを感じますが、このように両立できるのは指導教員のご理解と熱心な指導があるからです。指導教員には研究のご指導だけでなく、臨床現場のことについても相談に乗っていただいています。自分の中で混乱していたことが、実は研究内容と深くつながりを持っていたり、今まで学んできたことが結びついていたりして、頭の中を整理して、新たな思考を持つことができています。今は一人前の研究者になれるよう、また臨床現場でも大学院で学んだことがいかせるようにしていくことが目標です。

学びたいことがじっくり学べる環境がここにはあります。是非、関東学院大学看護研究科と一緒に学びませんか！

橋本美恵子